## みどうの杜俳句会

鈴の付く猫の尾先へ蜻蛉飛ぶ　梅沢喜久江
嵐過ぎ稲穂靡ける谷地田かな　西　ツル
萩の花枝先撓ふ山路かな　梅澤　時江
眠れぬ夜耳をすませば虫の声　鈴木　啓子
蟷螂の日の差す庭に鎌伸ばす　田村　好子
色づきて庭の無花果割れ初むる　吉田　愛子
赤蜻蛉真昼の空に翅光る　有賀袈裟江
昨晩の続きを読みて灯の親し　柴﨑　カヨ
一礼に鳥居潜りて秋の風　初雁　功子
蟷螂の身重りに草撓ひけり　小宮　勉
山独活の蕾弾くる雨後の畑　山田　美子

## 人権シリーズ

### 【誰もが自分らしく生きられる社会を実現するために】(430)

私が小川町の教育委員会に勤めていた時のこと。通勤の際、高校へ通う娘を小川町駅まで送っていた。駐車場から駅までの数分間、たわいもないおしゃべりが日課となっていた。

冬のある寒い朝、娘は「制服だから仕方がないけど、どうして女子だからってスカートを履かなければならないんだ・・・！」と言ってきた。その言葉に寒さに対しての憤りだけではない強い想いを感じた。

それからしばらくして一昨年、私は東秩父中学校に赴任した。そこで、生徒会の本部役員の一人の生徒が立候補する際「女子の制服にスラックスの導入を要望」を公約にしていることを聞いた。

様々な人権教育研修会でも「性の多様性」について取り上げられる機会が多くなっていた時期である。生徒たちも多様性やジェンダーについて考える良い機会になると思い、女子のスラックスだけでなく、男女とも選べるブレザーの導入を進めることにした。

そんな中、ある教職員対象の人権教育研修会に参加した時でのこと。私のグループでは「多様な性」への対応として制服のことが話題となった。その中で「女子のスラックスはいいけど、男子がスカートを穿きたいと言ったらどうしようか」という話になった。一番難しいのは大人の意識を変えることだと感じた。

「ジェンダー平等」はSDGsの目指すべきゴールの一つである。「男らしさ」や「女らしさ」よりも「自分らしさ」である。

ゴールまでの道のりはまだまだ遠い。しかし、僅かずつでも着実に近づけていこう。

社会教育委員／東秩父中学校長　田端　隆二

## アートの世界

秋の夕暮れ、ふとした思いつきで、鬼灯を月明かりにかざしてみました。

赤い実を包む薄い殻が光を透かし、その向こうに、まるで鬼灯が抱くようにして、美しい月が浮かんでいました。

「ホオ月」
撮影者　写友会
野口　良二さん（大内沢）